

仙台筆筥協同組合 仙台筆筥協同組合（宮城県）



「仙台筆筥の技術を応用した海外向け新商品開発事業」

【事業目的】

ライフスタイルの変化に伴い、仙台筆筥の売上が減少傾向にある中、仙台筆筥職人の後継者不足が課題となっている。そうした状況を打破すべく、かねてより海外向けの新商品開発と試作に積極的に取組み、新たな販路獲得を目指していた中、震災により仙台筆筥に携わる職人・企業の多くが被害を受け、新商品開発だけでなく、従来業務への影響も深刻な状況となった。

一方で、海外展開を図り、新たな販路・顧客への獲得を目指し、被災した筆筥職人・企業の復興を行っていく。

【事業実施状況】

- ・ 第1回委員会
平成23年9月10日（湯目家具百貨店）
→新開発商品のコンセプトの説明
- ・ 第2回委員会
平成23年9月27日（仙台筆筥歴史工芸館）
→デザインの検討
- ・ 第3回委員会
平成23年11月9日（東京ビックサイト）
→「インテリアフェスティバル2011」展示

【成果・今後予想される事業効果】

「大切なモノや想いをしまおう」という開発コンセプトにジュエリーボックスなどの小筆筥類を試作し、市場性などの調査・検討を行った。伝統的技術を活用し、現代生活における実用性と美しさの追求が新商品開発の目標であるが、本事業の推進は今後の活動展開の方向性を探る上で有意義なものになった。

また、今回の調査でも明らかになった修理やオーダーの需要の高まりは、震災後も顕著であり、組合としてもニーズに対応した体制や運営の強化をすべきと考えている。

手仕事を主体とした繊細な技術や地域の文化や暮らしをイメージした商品は、海外の富裕層はもちろん、国内の比較的余裕のある熟年層に受け入れられると思う。今後は、宮城・日本を代表する仙台筆筥の歴史・文化・技術・芸術性などを広くアピールしブランド化を図り、認知度を高めたい。

平成24年度は支倉常長がバチカンに向けて出航400年で、小筆筥を持参したことも伝えられている。組合としても様々なイベントにも参加し、関係国との友好は勿論であるが、仙台筆筥のグローバル展開の糸口になればと期待している。